

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771300419		
法人名	医療法人社団 光風会		
事業所名	高齢者グループホーム プレスマン		
所在地	香川県高松市牟礼町原932-1		
自己評価作成日	令和4年9月9日	評価結果市町受理日	令和4年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	令和4年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍ではあるが、入居者と家族との繋がりを大切にしたいと考えて支援している。日常生活に笑顔がプラスできるようレクリエーションにも力を入れている。緊急時や火災時には法人と協力体制がとれるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

駅近くの小高い丘の南向きにある、赤い屋根の3階建てが事業所である。本体は医療法人の病院で他に障がい者の事業所や老人保健施設を併設している。理念には入居者様の「自分らしさ」を尊重し、寄り添い・見守り、家族や地域との交流を大切にし…とあり、利用者一人ひとりの思いや希望を大切にしたい支援が実践されている。職員は正職員でベテランの方が多く、看護職員は3人配置されており、利用者の小さな変化にも留意した対応がなされており、医療機関や家族関係者に連絡・連携に努め、家族等の信頼を得ている。地域とは協力関係があり、交流のイベントや介護や認知症予防の情報提供などが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍ではあるが、入居者を主体に地域や家族との交流が図れるよう基本理念を挙げ、毎朝の申し送りの際唱和している	基本理念は職員室に掲示され、毎朝ミーティング時に全員で唱和されている。事業所では理念が実現できるよう、管理者、職員が協力し合っている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、入居者との直接交流は図れていないが花の苗を頂いたり、手紙や電話での交流は図れている	コロナ禍で、直接のふれあいは控えられているが、いただいた花の苗を植えて育て、花が咲いたら見学に来てもらうなど繋がりが大切にされている。また、手紙や電話を使い頻繁に発信するよう努められている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は、事業所の広報に認知症に関する情報を掲載し自治会の回覧時に配布して頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり、運営推進会議は開催できていない。2か月に1度、事業所の活動報告や事故報告書を自治会、民生委員、老人会、婦人会、地域包括支援センター宛てに送付している	集会形式の運営推進会議は開催できないが、お伝えしたい情報は2か月に1度は参加者に配布されている。事業所の取り組みや現状は理解され、会議再開時には空白が生じないように配慮されている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍であり事業所の活動報告や事故報告等を送付し、実情報告を行っている。入居者の成年後見人制度活用について協力頂いている	包括支援センターを窓口として、運営推進会議や活動の状況、事故の報告などが行われている。利用者の相談や、多様な制度の利用時など、支援協力体制が築かれている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自施設や法人での研修にて、行動制限や隔離拘束について学び、理解を深めている。施設内には身体拘束に関する指針が全ての人に閲覧できるよう環境を整えている	現在身体拘束に該当するケアは見られないが、法人や事業所では、定期的に合同で研修や勉強会が実施されている。安全確保した上で、身体拘束にならないケアとして、ベッド柵は1個、壁際につけないと取り決められている。また玄関にてガラス越しの面会も実施されている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや研修にて虐待や不適切な対応について知識を深めている。法人で年2回虐待防止強化月間を設け、チェックリストを提出し虐待防止に努めている		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう	各制度については法人内で定期的に勉強会を行っている。個々の必要性について関係者と話し合い、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な時間を頂き、書類に添って説明を行っている。リスク説明や介護職員による服薬管理については別書類にて説明を行い同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に対するご意見やご相談については法人全体に報告し、他職種で話し合い入居者や家族等のご意見が組み取られるよう努めている	利用者や家族等の意見や要望はすべて、法人に報告がなされている。また、多職種で協議、情報を周知共有することで、運営に反映されている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はフロアリーダーが聴取し毎月開催しているリーダー会議にて検討。その後、管理者と代表者へ報告している。毎朝のミーティング・毎月開催しているカンファレンスや各会議の時間を利用し、意見や提言を言えるような場を作っている。会議やミーティングには管理者が出席し、職員の要望や意見を聞く機会を可能な限り設け、運営に反映できるように努めている。管理者、代表者は定期的及び必要時には職員の個別面談を実施している	管理者と職員と一緒に働き、ミーティングやカンファレンス等を通して、職員間の話しやすい雰囲気づくりが心掛けられている。各フロアのリーダーは職員の提案や意見を聞き取り、リーダー会を通じて管理者・代表に伝えられ検討されている。管理者や代表は定期的に職員と個別面談も実施して、働きやすい職場作りにも努められている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	設立母体が医療機関であり、職員の健康診断・予防接種・メンタルヘルスなど健康を維持できるような対応を実施している。職員全体に対し毎月勤務希望を聴取する事で、希望日に休暇を取得できリフレッシュできる体制、配慮を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修(月1回)介護保険事業部研修(月1回)施設内研修(月1回)を計画的に実施している。本年度はZOOMを用いた研修を施設内で受講できた為、以前より研修に参加しやすかった。参加してみたい研修があれば積極的に参加して頂き、育成に努めている。職員の勤務年数・介護技術・知識等の能力を把握し個々に必要な外部研修に参加してもらいスキルアップを図っている。フロアリーダーが中心となり、介護技術の指導を行いエビデンスに基づいたケアが実施できるよう指導・助言を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて同業者との情報交換や交流を持つ事で意欲向上を図っている。香川県グループホーム・小規模多機能連絡協議会にて他事業所と意見交換を行い、他施設での取り組みや改善した事を参考にさせて頂き、自施設でのサービス向上を図っている		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新型コロナ感染対策を取り入れながら、事前に情報収集を行い本人の希望や要望・困っている事など話し合い、本人の安心を確保するような関係作りに努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの生活状況やサービス利用等、家族様と話し要望や不安また困っている事を理解し、ご家族様との信頼関係に努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を柔軟な対応で可能な限り行う。また、場合に応じて他の事業所とサービスの連携がとれるよう対応している
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で本人の負担にならないように配慮した上で、役割をもって頂き家事を行ったり、苗植えなどを行い、共に楽しみを協働して関係作りを行っている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染拡大防止の為、サービス担当者は電話にて会議を3か月ごとに行い、本人の希望について話し合っている。新型コロナウィルス警戒ステージに従い、感染対策を行いながら、来設時に様子を伝え希望があるか聞いている。また、体調に変化がみられる時は、その都度ご家族様に報告して本人を支えていけるよう協力関係を築いている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウィルス感染症対策の為、現在地域ボランティアによるイベントや秋祭り等での交流は中止している。ご家族様との面会は行政の指示に従って、その都度工夫変更されている。従来通りの面会が出来ないので、定期的に利用者の写真や様子が報告されている。また些細なことも家族等に電話でお知らせをして、連絡を絶やさないように気配りがなされている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新型コロナウィルス感染防止対策をとった上で、食事・お茶会・ユニット交流会・レクリエーション等、入居者様が一緒に過ごせる時間を持てるように支援している。また、洗濯たたみや食材切など入居者様同士が助け合い、支えあって生活していけるよう職員は調整役になれるよう努めている
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了し、併設施設への入院になった入居者様・ご家族様に対して関係を断ち切る事なく継続的なフォローをし、相談や支援に努めている

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日々の関わりの中や今までの生育歴、生活歴等から、希望や意向を推し量るよう努めている。意思疎通の困難な方に対しては、表情や態度から聴覚障害には筆談や口の動きから読み取るよう努めている。ご家族様や関係者から情報を得たり、カンファレンスにて本人の思いや意向の把握に努めている	一人ひとりの利用者の個性を大切に日々の関わりの中で感じた事や成育歴や生活歴等を参考に、カンファレンスを行い、意向や思いの把握に努められている。また、コミュニケーションが困難な場合は、行動や表情から汲み取り寄せたケアが実現できるよう取組まれている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者やご家族から、これまでの生活や暮らしの様子を聞き取り情報収集を行いながら、生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活のリズムを多方面から総合的に把握し、できないという情報にとらわれず、できる力を発見していく事に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日常生活を基に事業所内でDrカンファレンスやスタッフ間のカンファレンスを行い、意見やアイデアを集約し介護計画を作成している。また、介護計画を家族へ説明し、その際、意見や要望を聞くようにしている	定期的に各職種によるカンファレンスを行い、そこでの意見やアイデア等介護計画に反映させている。計画書見直しは、意見や要望を聞き取る機会ともなっており、より現状に即した計画となるよう本人、家族にきちんと説明がなされている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分・入浴・排泄をチェック表に記入し、日々の活動や状況を申し送り情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3名の看護スタッフを配置しており、併設の病院や事業所もあり連携体制は充実している。入居者様の受診や入院、早期退院支援、医療行為を受けながら生活は継続している。本人・家族の意向により看取りも行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染防止の為、ボランティアとの交流や外出は出来ていない。関係が途絶えない様、活動報告を行っている。地域の方からお花や作品を頂き交流が途絶えないようにしている		

30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族が行っている。家族へ身体状況等を報告しスムーズな受診につなげている。併設施設の受診は看護師が同行し、病院関係者に近況報告を行い適切な治療が受けられるよう支援している	外部のかかりつけ医の受診では、家族に付き添いを依頼し、利用者の心身の状況を伝え、受診の結果報告を受け情報共有、連携がなされている。併設施設への受診は看護師の付き添いにて実施されている。また、緊急時には看護師が早めの対応が出来るよう体制が整えられている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員3名配置しており、日勤帯には必ず1名所在するようにしている。介護職員はコロナ感染対策をふまえて入居者様の体調不良も含めた情報や気づきを看護職員に伝え適切な受診につなげている。夜勤帯では併設の看護師の協力を得ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に併設の病院へ入院がスムーズに行えるよう地域連携室と情報交換を行っている。入院時には看護添書にて必要な情報を医療機関に提供し、入退院の際は家族と共に入居者に寄り添うよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にどこまで対応できるか、ケアの説明を行い方針を共有するようにしている。状態に変化があれば、家族・医師・看護師等で話し合い、治療方針等を決めそれに沿って行っている	看取りに関する指針を作成し、医療関係者やスタッフの研修も行われている。重度化や看取りの状態になった場合は、事業所でどこまで対応できるかや、利用者や家族の思いの確認について何度も話し合いがなされ、方針を共有してチームで取組む体制が構築されている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、勉強会やカンファレンス・研修に参加して技術を身につけるようにしている。マニュアルを作成し職員全員に周知を徹底している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、年2回入居者と一緒に日勤帯・夜勤帯想定訓練を行っている。また、併設の病院や事業所・地域とも連携を取り、避難時の応援体制を確保している	災害時には隣接の病院と連携して対応することとなっている。事業所が3階建てなので、垂直の避難移動が必要な場合や、停電でエレベーターが使用できない場合など多様な避難方法の訓練が検討されている	病院を中心とした規模の大きい事業体となっており、災害弱者要配慮者も多く生活されているため、災害時の応援体制については法人内の事業所の相互応援に加え、今後、地域との相互応援協力体制の発展等による防災力の更なる強化に期待します

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の自分らしさを尊重し、その人に合った声掛け、対応を心掛けている。個人情報をもれぬよう気を付け取り組んでいる	一人ひとりの個性を尊重し、利用者や家族等に尋ねながら、本人にとって心地よい対応が心掛けられている。個人情報に配慮し、利用者の個室のカギ使用や表札の表示につき希望を聞き取って実施されている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外気浴・体操・入浴等の日常的支援の際は、本人の希望を聞き取っている。また、外出や買い物の訴えがある時は感染状況をみながら早めに行くよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で体調を見ながら、入居者の希望も聞き取り一人ひとりのペースに合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みの洋服や必要な物を聞き、買い物の支援をしている。また、月1回訪問理容の方が来られ散髪を行っている。コロナ感染対策により、県のフェーズが高い時期には行えていない。日常のモーニングケアや髭剃り、入浴後に化粧水を使用する等、個々に合わせた支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望メニューを聞きメニューを取り入れた手作り夕食・手作りおやつを提供している。コロナ感染対策を行ったうえで、食材を切り分けるなど職員と一緒にやっている。食後にはテーブル拭きやお盆拭きなど片付けと一緒にやっている	献立に利用者の好みや希望も反映させ、利用者と職員と一緒に考え手作りの食事やおやつ作りにも挑戦、調理がなされている。利用者はそれぞれに自分に出来ることを手伝い参加されている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嚥下状態に応じて食事形態を変えている。栄養バランスを考え盛り付け等も工夫し、摂取量が増えるよう努めている。一人ひとりの食事量・水分量をチェックし、水分が少ない方には好みの物を提供したり、ご家族からの差し入れを頂き水分量の確保をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い実施している。歯磨きの上手くできない方や磨き残し等確認し、洗口液等も活用し口腔内の清潔に努めている。義歯は夜間洗浄剤につけて消毒し清潔を保っている		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛けを行っている。トイレで排泄を行う事で失敗やオムツの使用が減少できるよう支援を行っている	本人がトイレに行き排泄したい意向が感じられた際はその都度対応がなされている。日中は排泄パターンを把握して誘導するので、失敗は減少している。夜間は安全性を優先してポータブルトイレを使用しているが、センサーマットを導入し、動きがあればすぐに対応できる体制が整えられている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や乳製品、水分を摂ってもらうように声掛けを行い、出来るだけ薬に頼らず排泄できるよう支援を行っている。午前、午後に体操を行い身体を動かすよう支援している。必要に応じて緩下剤を使用し便秘の改善に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に2~3回個浴にて入浴して頂いている。一人一人声掛けにて時間、温度等の希望を聞き添うようにしている。体調や希望によりシャワー浴やリフトを使用して安全に入浴してもらうよう支援している。季節に合わせて菖蒲湯、ゆず湯等も行っている	入浴は利用者の体力や安全を配慮して、午前中に実施されている。リフト浴が多くなり、一人ひとりをゆっくり入浴するため、週2~3回となる。季節にあわせ菖蒲湯やゆず湯等を用意して楽しみが増す支援もなされている。また、清拭やシャワー浴も随時行われている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎朝ラジオ体操を行っている。おやつ前にはリハビリ体操、足踏み体操等も行って身体を動かしている。体調に気を付け無理しないように行っている。気候の良い時は外気浴・日光浴をして夜間良眠できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の定期薬一覧表に目的、用法、効能等が記載されており、職員が理解できるようにしている。変更時には伝達ファイルに理由等記入し一覧に追加変更している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状況をみて話し合い、その人に合った役割を持てるようにしている。歌、生け花、体操等その人の生活歴に合わせ出来る事を楽しんで頂き、何かしたい事があるか聞き取り入れるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の外出はコロナ感染予防を考慮し、県からのコロナ対策の連絡に沿って行っている。外出できない時は話を聞き買い物は代行している。家族や地域の方々と一緒に出掛ける事はコロナ対策の為なかなか出来ていない。希望者は他病院受診や併設の売店へ感染対策に気を付け行っている	コロナ禍では、利用者の外出希望に添えないが、戸外で散歩や日光浴、車中でのドライブなど行われている。買い物は職員が代行したり、家族に依頼、受診時に売店に立ち寄るなど柔軟に対応されている	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお小遣いを預かり、事務所で管理し必要時出金している。希望する外出や買い物代行を希望された時は、地域での買物・外出を入居者と話し合い選択する楽しみを持てるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が希望された時、家族や友人の電話を取り次ぎ、手紙の郵送受け取りを代行し、やり取りが途切れぬよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にプランターを設置し、季節の花や野菜を入居者の方と一緒に育て収穫提供している。金魚やめだか等を飼育し外気浴の際、成長を見守っている。ホールには皆で生けた生け花や地域の方より頂いた季節のお花を飾り、四季のうつり変わりを感じている。入居者と一緒に作った作品や日常行事等の写真を展示している。また、室内の温度や湿度調節・換気・消毒を行ったり、トイレの臭いにも気をつけ掃除を行っている	玄関先にベンチがあり、季節の景色やプランターの花が観賞できる。エレベーター前のフロアや通路は広く設定しているため、室内は明るく、ゆったり過ごすことができる。居間は和室風で食堂とキッチンが接続しており、利用者は居室や食堂で自由に過ごすことができる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを見たり、好みのDVD鑑賞、本や新聞を読まれ談笑できるよう座席スペースを作り、くつろげるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族写真や好みの花やメッセージを飾り、本人が活動しやすい家具の配置を工夫している。個別に見たい方はテレビを購入されている。自宅で使用していたなじみの物を持ち込み設置している。居室には鍵があり希望により施錠できる	ネームプレートは本人や家族等の希望で表示を決めている。私物の持ち込みは出来るが、ベッドやタンス・イス・テーブル・寝具は整備されている。テレビや携帯電話なども持ち込める。希望者は居室の施錠も可能であり、ゆっくりと過ごせる配慮がなされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの状態の変化を理解し、歩行器や車椅子、介護シューズ等使用し、活動の維持に取り組んでいる。本人の自尊心を傷つけないよう支援し、安心安全に過ごせるよう努めている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍ではあるが、入居者を主体に地域や家族との交流が図れるよう基本理念を挙げ、毎朝の申し送りの際唱和している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、入居者との直接交流は図れていないが花の苗を頂いたり、手紙や電話での交流は図れている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は、事業所の広報に認知症に関する情報を掲載し自治会の回覧時に配布して頂いている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり、運営推進会議は開催できていない。2か月に1度、事業所の活動報告や事故報告書を自治会、民生委員、老人会、婦人会、地域包括支援センター宛てに送付している
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍であり事業所の活動報告や事故報告等を送付し、実情報告を行っている。入居者の成年後見人制度活用について協力頂いている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自施設や法人での研修にて、行動制限や隔離拘束について学び、理解を深めている。施設内には身体拘束に関する指針が全ての人に閲覧できるよう環境を整えている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや研修にて虐待や不適切な対応について知識を深めている。法人で年2回虐待防止強化月間を設け、チェックリストを提出し虐待防止に努めている

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各制度については法人内で定期的に勉強会を行っている。個々の必要性について関係者と話し合い、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な時間を頂き、書類に添って説明を行っている。リスク説明や介護職員による服薬管理については別書類にて説明を行い同意を得ている
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に対するご意見やご相談については法人全体に報告し、他職種で話し合い入居者や家族等のご意見が組み取られるよう努めている
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はフロアリーダーが聴取し、毎月開催しているリーダー会議にて検討。その後、管理者と代表者へ報告している。毎期のミーティング・毎月開催しているカンファレンスや各会議の時間を利用し、意見や提案を言えるような場を作っている。会議やミーティングには管理者が出席し、職員の要望や意見を聞く機会を可能な限り設け、運営に反映できるように努めている。管理者、代表者は定期的及び必要時には職員の個別面談を実施している
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	設立母体が医療機関であり、職員の健康診断・予防接種・メンタルヘルスなど健康を維持できるような対応を実施している。職員全体に対し毎月勤務希望を聴取する事で、希望日に休暇を取得できリフレッシュできる体制、配慮を行っている
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修(月1回)介護保険事業部研修(月1回)施設内研修(月1回)を計画的に実施している。本年度はZOOMを用いた研修を施設内で受講できた為、以前より研修に参加しやすかった。参加してみたい研修があれば積極的に参加して頂き、育成に努めている。職員の勤務年数・介護技術・知識等の能力を把握し個々に必要な外部研修に参加してもらいスキルアップを図っている。フロアリーダーが中心となり、介護技術の指導を行いエビデンスに基づいたケアが実施できるよう指導・助言を行っている
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて同業者との情報交換や交流を持つ事で意欲向上を図っている。香川県グループホーム・小規模多機能連絡協議会にて他事業所と意見交換を行い、他施設での取り組みや改善した事を参考にさせて頂き、自施設でのサービス向上を図っている

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に行う本人・家族との面談で入居に至るまでの経緯についてお聴きし、関係機関があれば各機関の職員から情報収集を行い、生活全般の状況を把握し本人の要望を必ずお聞きし安心して入居できるよう関係作りに努めている</p>
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居に至るまで本人と家族様の思いや不安や心配・要望等を傾聴し良好な信頼関係作りに努めている</p>
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族が必要としている支援を他職種やサービス事業所とも連携を図り、柔軟な姿勢で対応の仕方を見極めるようにしている</p>
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様の居住地にてお手伝いさせて頂くという姿勢を基本に入居者様の残存機能を生かし、夕食作り・おやつ作りを一緒に行う。また、野菜や花の苗植え、収穫を楽んだりと一緒に協力する中で喜びを分かち合い家族のような関係で生活している</p>
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>コロナの影響により面会制限はあるものの日頃から連絡を取り、施設内の様子を月1回写真を同封したり、お手紙やプレスマン便りでお知らせしている。3か月に1度のサービス担当者会議は電話ではあるが入居者様の精神面や身体面を報告し信頼関係が築けるように心掛けている</p>
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナ禍もあり自由にならない事もあるが、各入居者や家族様の思い出話を傾聴し、人間関係やなじみの場所を把握し、本人が希望する関係が途切れぬよう電話や手紙等を利用し支援に努めている</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事やお茶、レクリエーション等、入居者が一緒に過ごせる時間を持てるよう支援している。また、掃除や洗濯たみ、お盆拭きなど入居者同士が助け合い支え合って生活する為、職員は調整役になるよう努めている</p>
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用が終了し、併設施設へ入院になった利用者・ご家族に対して関係を断ち切る事なく継続的なフォローをし、相談や支援に努める</p>

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの希望や意向を日々の関わりの中で推し量るよう努めている。意思疎通の困難な入居者には、ご家族や関係者から情報を得る等本人の思いや意向を把握できるよう努めている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者やご家族から、これまでの生活や暮らし方を聞き取り情報収集を行い、これまでの暮らしの把握に努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一人ひとりの生活のリズムを多方面から総合的に把握し、出来ないという情報にとらわれず、出来る力を発見していく事に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者がその人らしく生活できるよう、日常会話からも本人の希望を聞き取り介護計画を作成している。必要に応じて医師・歯科衛生士・管理栄養士等の意見を反映させ現状に即した介護計画書の作成に努めている。家族とは3か月に1度サービス担当者会議にて話し合い意見を取り入れるようにしている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、水分量、排泄状況を個々にチェック表に記入し、身体的状況及び日々の様子等を記録している申し送りで情報を共有し、状態に変化があれば介護計画の見直しを定期的に行い改善している
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の併設事業所でもあり、3名の看護スタッフを配置しており連携体制は充実している。入居者、家族の状況に応じて通院や送迎など行っている。看取りについては、本人・家族の意向に添って取り組んでいる。また、月に1度個々に「したい事」を聞き、外出外泊支援を計画し実行していたが現在コロナ禍で難しい為、自施設内でできる事を個々に考え支援している

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でボランティアの方との交流は図れず、地域活動への参加は出来ていない
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、いつでも相談や受診ができる体制を築き、適切な医療を受けられるよう支援している。主治医の他にも入居前からのかかりつけ医療機関との関係を密に結び、必要時は受診介助を行っている。併設施設への通院は看護師が同行し、他の病院の入退院は基本家族が付き添っている。病院への情報提供書類により状況把握に努め、緊急時は併設病院による対応がある
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を3名配置しており、日勤帯には必ず1名以上確保するようにしている。介護職は情報や気づきを看護職員に伝え適切な受診につなげている。夜勤帯では併設施設の看護師の協力を得ている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師が添え書にて必要な情報を医療機関に提供できるようにしている。病院関係者・家族との情報交換を密に行い、安心して治療ができるようにまた、できるだけ早期に退院できるように努めている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にどこまでケアが出来るかの対応について説明を行い、意向確認書・意向確認シートにて本人・家族の意向を伺い方針を共有するようにしている。状態に変化があれば家族・医師・看護師等で話し合い、情報を共有しそれに沿って統一した支援を行っている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、勉強会やカンファレンスを行い研修にも参加して技術を習得するようにしている。マニュアルを作成し、いつでも目につく所に置き職員全員に周知徹底している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、年2回入居者と一緒に日勤帯・夜勤帯想定訓練を行っている。また、運営推進会議にて話し合い地域の協力体制を築いている

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自分らしさを尊重し、その人に合った対応やさりげないケアを声掛けたり「入居者本位」を常に意識し自己決定しやすい声掛けをする。個人情報の漏洩がないよう気を付け取り組んでいる。プライバシー保護の研修は日々の出来事の具体的な情報を組み入れた内容で行っている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の声掛けや個々の希望や複数の選択肢を提案して一人ひとりが自分で決める場面を作っている。食べたい物の希望がある時はスタッフ代行にて購入し昼食時食べている。買い物の衣類時は感染状況が落ち着いていれば一緒に売店に行き、販売していない物は代行購入している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心掛けている。その日の体調や様子を見たりご本人の希望を聞きながらその日を過ごして頂いている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問美容室があり、散髪や顔そりをしてもらっていた。現在コロナ感染状況により訪問が出来ない事がある。希望者には施設でも髪染めを行う等、おしゃれを楽しまれている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりが得意分野を活かし、メニュー書き、テーブル拭き、お盆拭き等、入居者が中心になり行う様努めている。手作りおやつ、手作り夕食等の準備にも参加し、食事に対しての楽しみに繋がっている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量をチェックし、職員間で情報を共有している。一人ひとりの摂取状態をみて食事形態を考え食事量や栄養バランスが確保できるよう努めている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い清潔保持に努めている。現在コロナ禍で歯医者への往診が出来ない事もあるが、できる時には口腔内の状態を確認してもらい、みがき残しについて助言をもらっている

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切に声掛け誘導を行っている。トイレでの排泄を促す事で失敗やおムツ使用を減らし、自立排泄の支援を行っている。排泄チェック表により排泄パターンをつかむ事により、早めの声掛け誘導で失禁が減少した。トイレは3カ所あり北側3部屋にはトイレが完備されている。夜間は希望によりおむつの着用かポータブルトイレ利用も可能である
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然に排泄できるよう食物繊維の多い物の摂取や水分補給の声掛けを行っている。適度な運動を促したり一緒に運動し薬の使用頻度を減らすように支援している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間や回数等は入居者の希望に合わせて合わせるよう支援している。入居者は入浴を楽しみにしており、シャワー浴やリフト浴もある。午後から個々に合った簡単な作業を無理なく行っている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中の日光浴が安眠につながるため、天気の良い午前中には、日光浴やリハビリ体操を取り入れている。午後も個々に合った簡単な作業を無理なくしてもらっている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、薬の目的や用法などが理解できるようにしている。変更時には服薬一覧で効果や副作用について確認できるようにしている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの方の状況をみて話し、無理のない役割を持ってもらっている。生け花、音楽、おやつ等、その人の生活歴に合った出来る事を一緒に楽しんでもらえるようにしている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の外出はコロナ感染症対策を考慮しながら支援をしている。日用品の購入は入居者様の希望を聞き、職員が代行している。感染状況により屋内での体操や季節の行事、夕食作りの参加等を大切にしている

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族からのお小遣いを預かり事務所で保管している。地域での買い物や外食など、自身の好みによって選択をするという楽しみをもてるよう支援している</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者の方が希望された時に、ご家族様や友人への電話を取り次ぎ、季節の行事として年賀状を書く等やり取りが途絶えないようスタッフはその都度、ご家族に説明を行い支援している</p>
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関にプランターを設置し季節ごとに入居者の方と花、野菜の苗植えや水やりをし、色とりどりの花が咲く事や野菜の収穫を楽しみにしている。また、金魚やめだかを飼育し、水替えや餌やりをしている。エントランスには行事の写真、作品作りを展示している。ホールや居室、トイレが隣接している為、臭いがこもらないよう換気をこまめに行っている</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者が自由に自室で過ごせたり、ホールにはフローリングと畳の間があり、テレビを見たりゆっくりとくつろげるスペースにしている。その際はホールでスタッフが見守りしている</p>
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には写真やご自身のなじみのある物、家庭で使用していた家具を持参し使用している方もいる。他の入居者と見たい番組が異なる時や独自に音楽を聴きたい方は、テレビや音楽プレイヤーを購入し楽しませている。本人や家族の希望で居室出入口に個人名を明記している方もいる。ベッド、クローゼット、ダンス、テーブル、椅子は備え付けてある。居室には鍵があり希望により施錠も可能である</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者一人ひとりの状態の変化を観察し、車椅子やバギー、歩行器を使用し、活動の維持に取り組んでいる。状況に応じて出来ない事は本人の自尊心を傷つけないように支援し、安心・安全に過ごせるよう支援している</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍ではあるが、入居者を主体に地域や家族との交流が図れるよう基本理念を挙げ、毎朝の申し送りの際唱和している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、入居者との直接交流は図れていないが花の苗を頂いたり、手紙や電話での交流は図れている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は、事業所の広報に認知症に関する情報を掲載し自治会の回覧時に配布して頂いている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり、運営推進会議は開催できていない。2か月に1度、事業所の活動報告や事故報告書を自治会、民生委員、老人会、婦人会、地域包括支援センター宛てに送付している
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍であり事業所の活動報告や事故報告等を送付し、実情報告を行っている。入居者の成年後見人制度活用について協力頂いている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自施設や法人での研修にて、行動制限や隔離拘束について学び、理解を深めている。施設内には身体拘束に関する指針が全ての人に閲覧できるよう環境を整えている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや研修にて虐待や不適切な対応について知識を深めている。法人で年2回虐待防止強化月間を設け、チェックリストを提出し虐待防止に努めている

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各制度については法人内で定期的に勉強会を行っている。個々の必要性について関係者と話し合い、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な時間を頂き、書類に添って説明を行っている。リスク説明や介護職員による服薬管理については別書類にて説明を行い同意を得ている
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に対するご意見やご相談については法人全体に報告し、他職種で話し合い入居者や家族等のご意見が組み取られるよう努めている
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はフロアリーダーが聴取し、毎月開催しているリーダー会議にて検討。その後、管理者と代表者へ報告している。毎朝のミーティング・毎月開催しているカンファレンスや各会議の時間を利用し、意見や提案を言えるような場を作っている。会議やミーティングには管理者が出席し、職員の要望や意見を聞く機会を可能な限り設け、運営に反映できるように努めている。管理者、代表者は定期的及び必要時には職員の個別面談を実施している
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	設立母体が医療機関であり、職員の健康診断・予防接種・メンタルヘルスなど健康を維持できるような対応を実施している。職員全体に対し毎月勤務希望を聴取する事で、希望日に休暇を取得できリフレッシュできる体制、配慮を行っている
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修(月1回)介護保険事業部研修(月1回)施設内研修(月1回)を計画的に実施している。本年度はZOOMを用いた研修を施設内で受講できた為、以前より研修に参加しやすかった。参加してみたい研修があれば積極的に参加して頂き、育成に努めている。職員の勤務年数・介護技術・知識等の能力を把握し個々に必要な外部研修に参加してもらいスキルアップを図っている。フロアリーダーが中心となり、介護技術の指導を行いエビデンスに基づいたケアが実施できるよう指導・助言を行っている
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて同業者との情報交換や交流を持つ事で意欲向上を図っている。香川県グループホーム・小規模多機能連絡協議会にて他事業所と意見交換を行い、他施設での取り組みや改善した事を参考にさせて頂き、自施設でのサービス向上を図っている

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居に至るまでの経緯や生活全般の状況を聞き把握に努めている。希望があれば入居体験をしてもらっている。本人・家族の思いや不安に耳を傾け安心して過ごせる関係に努めている</p>
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居に至るまでのご家族の苦労や現在のサービスの利用状況等を把握し、施設に対する要望や不安に耳を傾けている。施設での活動内容等を説明する事で家族との信頼関係作りに努めている</p>
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人やご家族との何気ない対話の中で必要としている支援を見極め柔軟な対応を行い、場合によっては他事業所のサービス利用もできるよう連絡し対応に努めている</p>
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>月1回の夕食作りやおやつ作り等協力しながら行っている。また、テレビを一緒に見ながら昔の話をしたり感動を分かち合ったりする事で暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>月1回家族に手紙を出したり、来設時に現在の状態を報告している。コロナ禍で面会を制限している為、電話で支援について話し合っている。精神面・身体面に変化があればすぐ電話で報告し、信頼関係を築いていけるようにしている</p>
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>日々の暮らしの中で入居者一人ひとりとコミュニケーションをとり、言葉に耳を傾けている。本人が馴染み親しんだ場所を把握し、コロナ感染拡大が落ち着けば外出する事を約束している。また、馴染みの人との関係が途切れないよう電話を掛ける等支援している</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日々の体操やレクリエーション・月1回の手作り夕食、ユニット交流会など感染対策を取りながら入居者様が一緒に過ごせる時間を作り、必要があれば職員が間に入り調整役となっている。また、食後のテーブル拭き等、入居者同士が支え合って生活しているよう職員は見守りや声掛けに努めている</p>
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院となった入居者様やご家族様に対してサービス利用が終了しても関係を断ち切らず必要に応じて相談や支援するよう努めている</p>

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者様の自分らしさを尊重し一人ひとりの希望や意向を毎日の関わりで把握するよう心掛けている。また、意思疎通のとりづらい入居者様にはご家族様より情報を収集し、本人の意向を把握ができるようにしている</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>これまでの生活状況や暮らしを入居者様やご家族様から聞き取り、スタッフ間で情報交換を密に行い、情報を把握し馴染みの生活が継続できるよう支援に努めている</p>
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>入居者様一人ひとりの生活リズムの中で情報にとらわれず、多方面から総合的に把握し出来る事を発見し維持できるよう支援を行っている</p>
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居者様が自分らしく生活できるようご家族様や本人とモニタリングを行っている。コロナ禍でサービス担当者会議は電話で行い、要望や意見を聞き計画の見直しやケアプランの作成を行っている</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別カルテとは別に水分・食事量や排泄の有無など一目でわかるチェック表を作成し情報を共有している。定期的に介護計画の見直しを行いカンファレンスを行っている</p>
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>病院の併設施設の為、看護スタッフ3名を配置し看護体制の充実を図り、受診など医療行為を受けながらも生活の継続が出来る様にしている。入居者様にやりたい事等を聞き、感染対策を取りながら施設内で行える事を月1回以上行っている</p>
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図るため当面の間、原則書面に対応している。2カ月に1回議事録を郵送し情報交換を行っている</p>

30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、本人の希望するかかりつけ医に情報提供を行い、適切な治療が受けられるよう関係を密に結んでいる
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化に気づき看護師に情報を伝え、適切な受診や治療につなげている。看護師3名配置し日勤には必ず1名確保している。夜勤は併設施設の看護師に協力してもらっている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時必要な情報を医療機関に提供し、看護師が付き添っている。家族と情報を共有し早期退院につなげている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	人居時に家族の方とケアの説明を行い、どこまで対応できるか話し合い方針を共有している。状態の変化があれば家族・医師・看護師で話し合い治療方針を決め支援している。また、終末期も家族・医師・看護師で定期的に話し合い、本人・家族の意向の意向に添えるよう取り組んでいる
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修会に参加して技術を身につけ、急変時の対応について勉強会・カンファレンスをするようにしている。マニュアルを作成し全体に伝達している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した訓練を実施しており、入居者様にも参加をお願いしている。雨天時の避難方法、コロナ感染予防をしつつ避難経路や避難場所について話し合い訓練している。水や白米等の非常食や簡易トイレ、トランシーバー等の備蓄品のリストも整備している。併設施設と災害に備えマニュアルを作成している

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者様の居室ドアには希望者以外には名前を付けないようプライバシーに配慮している。個人情報的重要性を理解し守秘義務を守っている。また、理念でもある入居者様の自分らしさを尊重し、楽しく安心して過ごせるよう支援を行っている</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>入居者様との雑談で思いや希望する事を情報収集し、レクリエーションを行っている。コロナ感染拡大の為、外出支援はなかなか出来ないが、併設の病院内売店を利用している。警戒フェーズによっては、一緒に買い物に行ったり代行している。また、毎月希望屋食、手作り夕食の際にはお手伝いをお願いしている</p>
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日の会話の中で個々の意向などを傾聴し、無理のない生活の流れを作っているよう努力し、入居者様の身体的・心理的状況の変化を把握している。食事や入浴等、その日の状態に応じて支援を行っている</p>
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>月1回訪問理容の方が来られ、散髪を希望される入居者様に似合った髪型にカットして頂いている。(コロナ感染拡大時は中止している)入居者様の装いは職員と共に希望を伺いながらコーディネートを行っている</p>
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者様から日頃食べたい物を雑談の中で伺い、希望屋食や手作り夕食の献立の参考にしている。手作り夕食時には野菜を切ったり調理を楽しんで頂いている。また、施設で収穫した野菜も利用した季節を感じる調理で楽しんで頂いている。行事の際は弁当を活用し楽しんで頂いている</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分量や食事摂取量はチェック表に記入し、必要量を確保している。歯磨きの出来ない入居者は職員が介助している。飲み物は本人様の好みの物を購入し毎日提供している。食事形態は入居者様の状態に合わせた物を提供している</p>

42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアは食後に声掛けし個々の状態に応じて対応している。見守り・声掛け・仕上げの必要な方の支援を行っている。歯磨きが困難な方は職員が介助している。義歯使用の入居者は毎日洗浄剤に付けている。清潔保持の支援を行っている。かかりつけの歯科医にて口腔ケアの指導を仰いでいる</p>
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>入居者様個々の身体状況に応じ排泄の失敗やおむつの使用を減らす為、便座に座る時間を長めにとってみたりトイレ誘導の回数を増やし自力排泄やパターンを把握するよう努めている。また、夜間トイレに行くのが不安な入居者様には希望にてポータブルトイレを使用して頂き、転倒リスク軽減に努めている</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日リハビリ体操・ラジオ体操等、軽い運動をおこなっている。手作りおやつ時には食物繊維の多いさつま芋等を細かくした物を提供している。便秘気味の方には冷たい牛乳や野菜ジュースを提供し、定期的なトイレ誘導や必要に応じて腹部をマッサージをしている</p>
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴は順に声掛けし、基本的に週2回以上は入浴している。自立度の高い方は朝浴や就寝前の入浴支援に努め、一人ひとりの希望を優先し希望に沿うよう入浴の声掛けをしている</p>
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>無理なく毎日午前中体操を行っており、天気が良い日は外気浴を兼ねて外で体操を行っている。自立度の高い入居者様は施設周辺の散歩を行っており、他の方は30分程度の午睡をとって頂き、気持ち良く安眠できるよう支援している</p>
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員全員が内服薬を把握できるようファイルを作成し、伝達・情報を確認できるようにしている。体調の変化や症状に出来るだけ早く気づき、ナースに報告し臨時薬や薬の変更があった場合は職員全員がすぐに認識できるよう医療伝達ファイルを作成し、速やかに情報を共有できるよう努めている</p>
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者様に寄り添い日々少しでも張り合いや喜びを見つけて頂けるよう、レク行事や季節に合った催しを行っている</p>
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>以前は家族や地域の人々に協力を頂き、外出等を計画していた。現在は外出はコロナ感染予防を考慮しながら買い物等は代行を行い、ドライブを行い支援している</p>

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族様から、お小遣いを預かり事務所で管理している。入居者様が買い物の希望があった時、お小遣いを利用しコロナ感染予防を考慮しながら併設病院の売店等へ送迎を行い、楽しみをもって頂けるよう支援している。また、自分で管理を希望された際は自分で管理して頂いている</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者が希望した時は、いつでも電話できるようにしている。年賀状や手紙のやり取りも行っており、困難な方には職員が代筆したり、月1回に送る書類に入居者様の様子を記入した用紙と写真を同封して近況を伝えている</p>
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様の五感を生かせるよう玄関には四季に合わせたお花や野菜作りを行っている。また、めだかや金魚などを育てて楽しめるようにしている。ホールには入居者様の写真や作品を掲示したり、入居者様が行けた花を置いている。温度計を確認し、必要な場合はエアコンや加湿器を使用し、夜間は照明を落として気持ち良く入眠導入できるよう工夫している</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>コロナ感染予防を考慮しながら、気の合った入居者様同士が楽しくお話出来るよう席を配置したり、落ち着いて過ごせるようにソファ等を置き空間を用意している。また、和室がありゆっくり過ごして頂けるよう座椅子や座布団を置き思い思いに過ごせるよう工夫している</p>
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様・ご家族様と相談し安眠しやすいようにベッド配置を考えたり、使い慣れた布団など持って来て頂いている。また、入居者様が居室で居心地良く過ごせるよう希望にてテレビ等の持ち込みも可能であり、部屋に鍵をかける事も可能である</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全に生活できるよう手すりを取り付け、障害物等は、最低限取り除き環境整備を行っている。また、居室の把握が困難な方には本人とご家族に許可を頂き居室ドアに名札を飾ったり、トイレや風呂等わかりやすい大きな文字で書いて工夫している</p>